

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和4年度事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1) 芸術文化振興事業

1) 経常事業

① 市民文化事業への支援事業

1	持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業／文化芸術の創造・発信・普及助成事業	通年	—	44,881	44,881	市補助金 44,881
	文化芸術への新型コロナウイルス感染症の影響が強く残る中、以下の助成事業を実施し地域の文化芸術関係者を支援する。実施にあたっては、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から広く公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる外部委員会による選考を経て、採択事業を決定する。 ① 持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業 :次代を見据え、地域における文化芸術の創造力や発信力を高め、まちづくりや人々の暮らしの課題解決に寄与するため、高い独自性、公益性、波及力を持つ事業に対して助成する。 ② 文化芸術の創造・発信・普及助成事業 :仙台の文化芸術の振興、郷土の歴史文化の継承及びその普及啓発の推進のため、優れた芸術家・団体等による文化芸術の創造・発信事業に対して助成する。					未来:15~20件程度 創造・発信:40~60件程度
2	支援・助成・協力事業	通年	—	19,690	18,842	市補助金 18,842
	市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。 ① 支援事業 :ウェブサイトに市民企画事業の告知を掲載する方法で広報サポートを実施する。 ② 助成事業 :仙台市の文化芸術の振興と普及啓発および郷土の歴史継承を推進するため、市民自らが行う公演・展示・上映等の経費の一部を助成する(「公演・展示活動助成事業」)。年2回公募。 ③ 協力事業 :特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。					支援:約200件 助成:約200件 協力:約70件
3	名義後援	通年	—	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行う。					

② 公演事業

4	宝塚歌劇全国ツアー一宮城公演	10/28~30	名取市文化会館	44,088	55,984	入場料等 54,834 協賛金 350 その他 800
	東北の中核都市圏としての宝塚歌劇の拠点公演継続と、広域ニーズへの対応を前提とし、地域における舞台芸術振興への貢献を目的に開催。新型コロナウイルスの影響で2年間中止となったほか、これまで親しまれてきた会場の仙台銀行ホール イズミティ21が、令和4年度から改修工事で完全休館となるため、年1回の公演継続のために、県内で実績のある会場として名取市文化会館を選択し、名取市文化振興財団に共催の協力を得て実施。					入場者:6,780人
5	仙台クラシックフェスティバル2022	9/30~10/2	日立システムズホール仙台、太白区文化センター	67,882	63,982	市負担金 26,952 入場料 30,570 協賛金他 6,460
	事業団設立20周年記念事業として、2006年(平成18年)、クラシック音楽に親しみを持ってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。当年度で16回目を迎える。当年度は仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台と太白区文化センターを会場に、3日間で68公演を実施するほか、仙台市内のより多くの地域を会場として、8月下旬~9月中旬に関連企画を開催する。ホールでの鑑賞に不安がある方も安心して楽しめるようルールやマナーを緩和したコンサートも実施する。 ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。 ・好評のコンクール入賞者と仙台フィルメンバー等とのアンサンブル、仙台・宮城出身アーティストの公演など、当事業団ならではの企画をより多く盛り込むとともに、仙台で音楽を学ぶ学生の演奏機会を設けるなど、クラシック音楽で街の賑わいを創出する仙台ならではのフェスティバルとする。					入場者: のべ22,000人
6	もりのみやこのふれあいコンサート	12/7	日立システムズホール仙台	3,616	3,616	市補助金 3,616
	障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催するコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えている。仙台市立中学校の特別支援学級の生徒の招待も実施している。事前申込・無料で、仙台市及び仙台フィルと共催している。当年度は、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台 シアターホールを会場に実施する。会場の収容人数が半減することを補うため、公演を収録した動画のオンライン配信を併せて実施する。					入場者:494人

7	共催事業	通年	日立システムズホール仙台	1,150	0	
放送局・文化芸術団体等が行う公益性の高い文化事業を共催し、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する。当年度は、仙台青葉能、人形浄瑠璃文楽、仙台オペラ協会第46回公演、第59回宮城県芸術祭(仙台市市民文化事業団賞の授与)、仙台短編文学賞等を共催する。						

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

8	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	103,057	99,177	市負担金 45,626 入場料等 13,551 助成金 40,000
<p>仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市と公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催で実施。</p> <p><普及啓発事業></p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(時期は未定):新型コロナウイルスの影響で、従来の市内小学5年生と中学1年生全員をホールに招待してのオーケストラ演奏会を見送り、学校に訪問する形式のコンサートを、何期かに分けて約100校を目標に都度編成を変えて代替実施。仙台フィル特別メンバーによる年齢に応じたプログラム。</p> <p>②日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(3/19一部使用、20~21全館使用):初日は一か所でのオープニングステージ&発表を展開。平日の1日目は、日中の午前・午後に「普段なかなか劇場に出来ない人」向けの鑑賞機会を複数用意。夜間は公募等一般の発表機会を提供。2日目は、コンサートホールでの合唱、シアターホールでの吹奏楽を軸に、フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成。</p> <p>③ダンスのいりぐちプログラム:乳幼児親子・多世代が参加できるコミュニティダンスのワークショップを実施。一時的に体験するだけでなく、主体的に作品づくりやコミュニケーションに参加する人材を育成。</p> <p>④バリアフリー・コンサート:観て、聴いて、楽しむことはもちろんのこと、実際に来場者も楽器に触れ、一緒に演奏するなど、体験を取り入れた「参加型コンサート」として開催。</p> <p><公演事業></p> <p>⑤名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」2022年度シリーズ(11/30、12/16 コンサートホール):第1回の11月公演は、今注目されている若手アーティスト2名を起用して、「変奏曲」をキーワードに名曲を堪能できる機会を提供。第2回は指揮&トークに茂木大輔氏を招き、オーケストラの定番曲の魅力を判り易く解説しながら聴かせるプログラム「いっつか聴いたあの音楽」を開催。</p> <p>⑥仙台フィルの音楽物語〜contmeetsオーケストラ!〜(1/14~15 コンサートホール):仙台フィルの副指揮者を経て、今や全国的に活動している指揮の松元宏康氏は、芸人としての活動も並行している珍しい逸材であり、よしもと宮城県住みます芸人のバクコメ秀作との共演で、楽しいオーケストラの音楽を体験できるコンサートを開催。</p> <p>⑦大前光市コンテンポラリーダンス公演(12月 交流ホール):豊かな表現力と感性を持った義足のダンサー・大前光市氏を招聘、良質なコンテンポラリーダンスを市民に届ける。在仙のダンサーや音楽家のコラボレーションも予定。</p> <p><人材養成事業></p> <p>⑧演劇プロデュース公演(3月中旬~下旬 シアターホール):2003年以来、久方ぶりのシアターホールでの演劇プロデュース公演。オール地元製作により、井上ひさしの作品を想定。</p> <p>⑨仙台おどりラボ(通年 エッグホールほか):在仙のダンサーの制作者・コーディネーターと協働し、ダンス愛好者が日常的に活動・学習できる仕組みづくりを整備。県内外で活動する舞踊家や他分野の専門家をゲストに招き、生のダンスを觀賞しながら、様々な角度から身体表現について学ぶ講座や勉強会を開催。「からだメディア研究室」との共催。</p> <p>⑩大前光市コンテンポラリーダンスワークショップ(通年 交流ホール):経験不問のコースと、ある程度経験のある方を対象としたワークショップ。公演事業として展開する大前光市氏のコンテンポラリーダンス公演と連携。</p> <p><その他></p> <p>青年文化センター事業評価(通年):青年文化センターの活性化に資する事業の評価を行い、事業運営を改善していくためのシステムを整えていく。</p>						

9	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	771	271	受講料等 10 コピー料収入 261
<p>地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行う。実施にあたってはクラウドファンディング等による資金確保や他課との連携を継続し、安定的・効率的な運営を図る。</p> <p>①日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(3/19一部使用、20~21全館使用) 初日は1か所でのオープニングステージ&発表を展開。平日の二日目は、日中の午前・午後に「普段なかなか劇場に來れない人」向けの鑑賞機会を複数用意。夜間は公募等一般の発表機会を提供。三日目はフリースペースを含め、コンサートホールでの合唱、シアターホールでの吹奏楽を軸に、終日全館を活用した数多くの演目で構成。(舞台芸術振興課と協働で実施。再掲)</p> <p>②青年文化センター施設機能強化事業群 (1)地域連携事業(通年) 旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「わんぱく森²(もりもり)がっこ」や、旭ヶ丘市民センターとの協働による地域に根差した施設としての役割を果たすための事業を行う。具体的には、施設の植込みに子どもたちと花を植える「フラワー大作戦」や「秋のファーム収穫祭」などを予定。 (2)フリースペース活用事業(通年) 展示事業: エントランスホールなど共有スペースにおいて、当館から発信している劇場・音楽堂等発信事業の拠点施設としての活動や収蔵レコード等の資源を活用した展示を行う。 知の場所づくり(サラダ文庫): 事業団関係の書籍、雑誌などの文化情報を配架した移動ラックをエントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらう。令和元年度から継続。 (3)諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(通年) 多彩な施設を有する当館の特長をいかし施設機能のPRを図るとともに、利用促進を促す。 (4)ホール活用事業(8月) コンサートホールを会場に、演奏会本番中に地震が発生したことを想定した避難訓練コンサートを、地域の町内会等広く来場者を募って実施する。 (5)共通経費 ③コピーサービス事業(通年) 施設利用者向けのサービスを継続して実施する。</p>						
10	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	2,634	1,480	入場料他 1,080 助成金 100 協賛金 300
<p>大規模改修のため施設は休館することになるが、これまで培ってきた施設のブランディングを継続し、かつ芸術鑑賞の機会が減少する泉エリアを中心としたアウトリーチ等を行うなど泉エリアの文化振興を図る。</p> <p>①市民協働によるロビーイベント(年2回): これまで大ホールホワイエを会場に開催してきた企画の枠を泉エリアを中心とした学校、商業施設等で実施する。施設休館のため芸術鑑賞機会が減少する同エリアの子供たちを主な対象として芸術鑑賞の機会を提供していく。</p> <p>②コンサートシリーズ「イズミノオト」(3/5日立システムズホール仙台シアターホール): 仙台市泉区出身で在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催、クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていく内容で実施する。令和元年度より開催し、着実に固定客をつかんでいるこのシリーズ企画を継続することで、イズミティ21のブランディングを図るとともに、クラシック音楽のファン層の拡大を目指す。</p>						
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。						
11	猿舞座のさるまわし	令和4年度中	榴岡公園 歴史民俗資料館	40	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です伝統芸に親しむ。						参加者: 800人
12	れきみん秋祭り2022	10/22、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	1,497	696	助成金 650
東北地方に伝わる伝統芸能や職人の技術といった「無形」の民俗文化、芸術文化を榴岡公園と歴史民俗資料館の館内を会場として紹介するイベント。						来場者: 3,000人
13	歴史的な生活体験教室	5月~11月	富沢遺跡保存館他	378	182	古代米販売 140 参加料 42
当館の敷地や隣接地を利用して、米づくりなど富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験する教室を行う。参加家族と協働して作業することを主眼に置き、歴史体験的活動を通して親子の絆を深める機会とする。富沢遺跡の特徴や地域資源を活かした、歴史生活体験型事業として実施する。対象は親子20組とし、5月~11月までの計7回(田植え・稲刈り・収穫祭等)の作業及び行事を予定している。また、収穫物を利用して、一般来館者を対象とした工作・試食体験も行う。収穫した古代米は参加者に配布し、余剰米はグッズとして当館で販売するほか、古代米の成長の様子などを情報発信する。						対象者: 親子20組
14	地域交流促進事業	通年	富沢遺跡保存館	207	20	指定管理料 20
当館の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、コンサートを中心に据え、地域に根ざしたイベントを行う。平成30年度より指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施しており、これまで参加者から好評を頂いた閉館時間帯の施設・野外展示利用など、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する。地域の方々に参加しやすく、今後さらに地域の人材と組織を活かしたイベントとなるよう企画し、地域活性化に寄与していきたい。また、季節によって大きく変わる当館の魅力を広く知っていただくために冬季以外にも実施する。						

15	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場！”	通年	富沢遺跡保存館他	1,661	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動に加え、学校利用向けや演劇要素の強い演出も試み、事業の可能性を広げていく。根本となる狩人の演じ方や衣装に関しては、実験考古学的手法も用い、旧石器時代の生活について考察を深めるための調査研究や演出などの検討を行う場を設ける。					
16	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	531	0	
	地域に根ざした博物館として、地域情報を記録・収集・発信することを目的とした事業。令和4年度はより地域に根差したテーマでの記録撮影や、映像記録の収集を行い、市民とともに地域アーカイブスを築いていくことを目指す。また、仙台市在住の映像クリエイターを講師に招き、記録映像の撮影の仕方を学ぶワークショップを実施することで、地域住民の「アーカイブ」事業への関心を高める。					
17	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	100	0	
	近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根差した施設になることを目的とした事業である。平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の山野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。令和2年度はコロナの影響により食に関わるものは避け、アーティストとオンラインで繋がったカラーリングブック製作のイベントを開催し、令和3年度はカラーリングブックを大判でプリントし、周辺施設で作品づくりをおこなった。当年度も引き続き、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを行う。					
18	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	1,180	300	助成金 300
	新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。 令和3年度は、リビングヒストリーの技術・知識をスタッフが習得するため、石器製作実験セミナーを2回実施。うち1回は海外の講師にオンラインで実施した。3次元計測では将来的にイベントや展示に活用可能なデータを作成するため、ハイスペックPCをリースしてデジタル写真計測を行った。当年度も引き続きデータの蓄積を行う。リビングヒストリーでは、すでに実践している施設や研究者などと情報交換を行うことを目的として、オンラインでの開催も念頭に、研究会やセミナーを開催する。					
19	せんだいメディアテーク開館20周年事業	通年	メディアテーク	1,200	0	
	開館20周年を機に、同時代性ある新たなメディアテーク像を打ち出していくために、現行の課題を乗り越え、次の10年の方向性を示す機会とする。 ① 記念誌発行(通年) : 全国書店に流通する書籍として出版 ② ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー2001-2021」 (通年 7階ラウンジ * 令和2年度より継続): これまでの歩みを、年表や写真、映像で紹介					
20	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	500	0	
	市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」の理念・実践の普及啓発を進めるため、市民や専門家とともに、実践的あるいは研究的視点など様々な角度で分析、調査研究を行い、その成果を発表する。					
21	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	300	0	
	施設活用の新たなモデルケース(手法)とツールの開発、実践として、次世代や親子層の日常的な利用における課題についての調査や、定禅寺通活性化に寄与する取組についての企画・開発を行う。					
22	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,431	1,316	刊行物販売 1,431
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ① 歴史民俗資料館グッズ : 昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、大正14年と昭和4年と昭和8年の仙台の商店記載地図、大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台城下絵図、昭和26年map of Sendaiの継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出307千円、収入600千円) ② 富沢遺跡保存館グッズ : 氷河期の森で採集できるハンノキの枝やチョウセンゴヨウの実等で、来館の思い出となるグッズを製作し販売する。また、ボランティア会が製作した編布シリーズや松ぼっくりのリースの販売を継続する。(支出70千円、収入85千円) ③ 縄文の森広場グッズ : 縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担っている。(支出100千円、収入150千円) ④ 仙台文学館グッズ : 前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、特別展に関連したグッズを制作し来館者のニーズに応える。(支出791千円、収入381千円) ⑤ メディアテークグッズ : ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズを継続販売する。(支出63千円、収入200千円)					

⑤劇都仙台2022事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施する。

- ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携
⑤情報交流や協働

23	市民能楽講座	1月	日立システムズホール仙台	3,926	3,926	市負担金 2,286 入場料 1,640
	能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。					入場者:556人
24	舞台スタッフ・ラボ	通年	演劇工房10-BOX他	6,228	4,074	市補助金 759 受講料 165 助成金他 3,150
	舞台監督・音響・照明・舞台美術・衣装・小道具部門の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コースなどを基本に、外部の組織・団体と連携し、参加者の声を反映しながら総合的な舞台スタッフの育成事業を実施。だれもが舞台芸術や表現の楽しさと奥深さを体験できる機会を提供することで、人材育成と市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指す。宮城野区文化センターとの共催により開催。当年度は10-BOXの改修工事が行われ、大幅な利用制限が見込まれている。そのため舞台芸術の創作の場・拠点が減り、演劇を志す若い人材が実践的に学べる場が消失すること、人々の交流が途絶えることが危惧される。さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、舞台創作の現場から離れざるを得ないスタッフが出て来たり、学生劇団などで引継ぎが困難になる事例が見られ、舞台に関する技術の伝承がなされないために、仙台の演劇が衰退する恐れがある。以上二つの点から、様々な人材が学び交流する場として当事業を例年以上に拡充して開催する。					対象者:100人 観客:200人
25	10-BOX鑑賞プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	4,841	4,293	市補助金 3,993 入場料 300
	①仙台・劇のまちトライアルシアター:これまで対象としてこなかった観客に向けての公演や、新たなテーマを設けた地元の創作公演、劇場以外での公演などにトライするほか、地元の演劇関係者と意見交換を行うミーティングを行う。 ②「SENDAI OROSHIMACHI Art Marché(せんだい卸町アートマルシェ)」:県内外の先駆的な作品や評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、数日間の演劇祭を開催。 ③共催公演:良質な演劇鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げる。 ④10-BOX広報事業:10-BOXを拠点として、仙台圏の演劇情報を集めインターネットや紙媒体等により広く市民に発信する。					対象者:のべ1,800人
26	演劇と表現の講座	通年	演劇工房10-BOX他	922	922	市補助金 747 受講料 175
	これまでの人材育成型プログラムで蓄積してきた手法をベースとし、中高生をはじめとする若者や、これまで演劇と関わりのなかった方が演劇に親しめる機会の醸成を目指すワークショップ。					対象者:50人
27	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,671	1,671	市補助金 1,671
	平成24年度から実施している「短編戯曲」を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行によって若い世代の作家の作品上演の機会を増やす。平成30年度から作品上演と作品募集をそれぞれ隔年での実施とし、令和4年度は第8回目の大賞選出を行う。					
28	能-BOX事業	通年	能-BOX	730	730	市補助金 625 受講料 105
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽をはじめ伝統的な日本文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中遼晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会との共催)、「能-BOXゼミナール」などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓を図ってゆく。					対象者:150人
29	地域連携による演劇振興事業	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
	①仙台市高等学校演劇祭:教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、「仙台市高等学校演劇祭」を宮城県高等学校演劇協議会との共催で実施する。 ②機材貸出等による舞台芸術活動サポート:近隣小学校の学習発表会や地域の市民活動に音響・照明等の機材貸出や運営アドバイスなど、舞台芸術活動の支援を行う。 ③協力・協働事業:IMS磯貝メソッド仙台塾の音声学ワークショップ「声とことばを学ぶ」や、インディペンデントシアターによる「最強の一人芝居フェス INDEPENDENT」仙台公演等への事業協力を行う。					対象者:400人
30	共通経費(事業間連携活動等事務費)	通年	演劇工房10-BOX他	1,384	286	市補助金 121 刊行物販売 165
	劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業に向けた視察や調査研究など、事業間連携活動に必要な業務費。					

⑥創造都市推進事業

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。

31	地下鉄駅コンサート	9/25,26, 10/2,3	地下鉄駅構内	1,113	1,113	市負担金 1,113
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内および周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。					

⑦土井晩翠顕彰事業						
32	土井晩翠顕彰事業	通年	—	970	970	市負担金 940 刊行物販売 30
平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行う。具体的には、晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに毎年10月19日の土井晩翠の命日の頃に記念のイベントを実施するとともに、晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努める。						
⑧育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。						
33	芸術家派遣事業	9月～2月	各学校・地域	0	0	
「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度は105か所に派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は1,700万円程度を見込む。						
34	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	12/10, 11, 2/5	日立システムズホール仙台	1,000	0	
仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市民文化事業団の共同主催により、平成27年より継続開催しており、令和4年度はピアノ、ヴァイオリン及び金管楽器の3部門を実施する。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとする。						
受講生:70人 入場者:1,050人						
⑨出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
35	出版物の販売継続事業	通年	—	14	101	刊行物販売 101
<p>①仙台文学館刊行物販売事業:『仙台北のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売。(支出0、収入60)</p> <p>②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業:『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,000円(税別)。(支出8、収入8)</p> <p>③『文化芸術の社会再生力』販売事業:事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売する。(支出0、収入3)</p> <p>④『RE:プロジェクト記録集』販売事業:平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売する。(支出6、収入30)</p>						
⑩広報事業等						
36	広報事業	通年	—	4,840	4,840	市補助金 4,624 その他事業収入 216
令和元年度まで発行してきた文化情報誌『季刊まちりょく』を令和2年度にウェブサイトにも全面移行し、仙台や地域の文化芸術情報を幅広く発信するメディアとして運営する。併せて、市民文化事業団ウェブサイト、Twitter等のSNSも活用しながら、当事業団の主催事業や活動、運営施設の情報等の発信を行っていく。						
37	市民文化事業団友の会運営	通年	—	2,910	400	友の会会費 400
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。市民文化事業団通信「市民ぶんかレター」による当財団事業の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等。年会費1,000円。						
会員:約1,300人						
38	事業団事業全体にかかる共通事務費等	通年	—	7,410	0	
<p>①共通事務費:事業全体の調整、新事業の調査・企画、臨時的人件費、チケット販売業務などの事務経費等。</p> <p>②人材育成事業費:財団職員全体の資質向上を目的とした各種研修を実施するほか、個々の職員や施設の専門性に応じた技術・能力や意欲向上を目的とした研修・勉強会等の実施支援を行う。</p>						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
第8回仙台国際音楽コンクールを開催する。						
39	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	17,350	17,350	市負担金 17,350
コンクール事務局の運営を行う。						
40	委員会運営	通年	日立システムズホール仙台他	7,397	7,397	市負担金 7,397
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。						
41	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	238,829	238,829	市負担金 195,009 入場料・協賛金等 43,820
第8回コンクール・ヴァイオリン部門を5月21日から6月5日に、ピアノ部門を6月11日から6月26日に開催する。41の国と地域から573名の申込があり、動画データ等による予備審査を通過したヴァイオリン部門43名、ピアノ部門42名が参加予定。						

42	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	42,343	42,343	市負担金 42,343
コンクール開催に係る広報活動及び開催期間の会場装飾等を行う。 また、審査の様様をインターネットでライブ及びアーカイブ配信する。						
43	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	3,516	3,516	市負担金 3,516
第8回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティアリーダーミーティングの開催 ②会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「Map for The SIMC Contestants」(Web版及び印刷物)発行、ボランティアブログ運営 ④出場者サポート:コンクール期間中の中場者に対する通訳サポート、コンクール出場者出演コンサートの通訳、交流サロン運営等 ⑤ホームステイ受入れ:コンクール出場終了後の出場者を対象としたホームステイの受入れ及び受入れ出場者の演奏サポート ⑥市民が企画するコンクール出場者出演コンサートの運営サポート						
44	第7回及び第8回仙台国際音楽コンクール 最高位入賞者副賞コンサート	通年	日立システムズホール仙台 東京都内他国内各地	24,085	24,085	市負担金 21,470 入場料等 2,615
第7回コンクール最高位入賞者には副賞提供期間である令和4年12月まで国内オーケストラの演奏会に出演する機会を提供する。 コロナ禍により令和2年度に続き3年度も中止することとなった、日本国内でのリサイタルの開催とCD制作等を行うとともに、国内オーケストラとの共演の機会を提供する。 また、第8回コンクール最高位入賞者については国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供の準備やCDの制作・販売を行う。						
45	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	5,634	5,634	市負担金 5,634
【第8回コンクール開催期間中】 ・審査委員によるマスタークラスを開催する。 ・予選を通過しなかった出場者による「チャレンジャーズ・ライブ」及び「学校訪問ミニ・コンサート」を開催する。 【第8回コンクール後】 ・仙台の音楽文化振興を目的に、コンクール入賞者と仙台市内の市民オーケストラが共演する機会を設ける。						

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

46	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台	29,434	29,434	市負担金 17,129 受講料等 12,305
<ul style="list-style-type: none"> ・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・8月に新潟市で開催される「ジュニアオーケストラ・フェスティバル」に参加する。 ・10月に「定期演奏会」を開催する。 ・3月に「スプリングコンサート」を開催する。 団員定員:122人						

(4)演劇系練習施設運営事業

47	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	27,480	27,480	市補助金 25,525 使用料等 1,955
「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。 ※令和4年度は再整備工事のため施設貸出に大幅な制限が生じるため、利用料は例年より大幅な減収となる。						
						収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設運営事業

48	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	67,540	67,540	市受託料 67,490 受講料 50
仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能をもち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努める。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展(年3回程度) ・震災復興メモリアルや地域の魅力発信にかかるワークショップ・講座等 ・館の運営に資する情報の収集 ・紙媒体、ホームページ等による情報発信(企画展やイベントの実施報告含む) 						

(6)芸術文化受託事業

(単位:千円)

49	市制施行133周年記念コンサート	7/4	日立システムズホール仙台	4,400	4,400	市受託料 4,400
仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。 当年度は、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台 コンサートホールを会場に実施する。 入場者:800人						

50	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	17,151	17,151	市受託料 17,151
大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用する。						

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

(1)仙台文学館普及啓発事業

51	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	425	425	市補助金 25 その他 400
特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。 ①特別展「権名誠」関連:トークイベントなどを開催。 ②「夏休みこども文学館 えほんのひろば 忍ペンまん丸」関連:折り紙ワークショップや敷地内を巡るクイズラリーなどを開催。 ③特別展「山内ジョージ」関連:講演会や、リーディングイベントなどを開催。 ④写真展「仙台コレクション」関連:写真家による講演会やワークショップなどを開催。						
52	ことばの祭典ー 短歌・俳句・川柳への誘い	6月	仙台文学館	470	470	市補助金 470
コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も事前応募での開催。賞の発表、選者講評はホームページ上で行うと同時に、入賞作品や選者の講評を館内で一定期間掲示する。						
53	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,659	2,659	市補助金 210 受講料 2,380 その他 69
文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を開講。開催にあたっては、安心して受講してもらえるよう、コロナ対策を徹底する。 ①佐伯一麦エッセイ講座:館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回の開催を予定。 ②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催する。						
54	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行う。						
55	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。						
56	情報誌の発行	通年	—	1,160	1,160	市補助金 1,160
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。						
57	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。コロナ禍で部屋自体は閉室しているが、情報コーナーの一部で展開を継続する。文学館の展示観覧は難しい小さな子どもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。						
58	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。						
59	出版物等の販売	通年	—	613	613	市補助金 299 刊行物販売 314
佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

(1)せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

60	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	25,000	25,000	市補助金 25,000
優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。「川俣正/仙台インプロGRESS」や「定禅寺こどもプロジェクト」などの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。						
61	展覧会事業	通年	メディアテーク	13,000	13,000	市補助金 6,750 入場料 750 助成金 5,500
コロナ禍を経験した今、表現をとおして根源的なメディアとしての身体への理解を深めるところから文化芸術を考える展覧会「壁と棒(仮称)」。 視覚や聴覚、運動機能など、身体にあらわれる不自由さを「障がい」としてだけ捉えるのではなく、その不自由さを乗り越え、日々つくりだされている新たなコミュニケーションの術を来場者が体験的に理解し、学ぶ展示とする。						
62	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	3,330	3,330	市補助金 1,830 助成金 1,500
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意する。 ＜スタジオ情報発信＞ 市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働する。 ＜地域文化アーカイブ＞ 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組み事業を実施する。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用される財産とする。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。						
63	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,400	4,400	市補助金 4,000 刊行物等販売 400
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。 ①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳や、託児付き、手話通訳・要約筆記つきの事業を行う。 ②館長発信事業:発信力のある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。併せて、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努める。 ③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。 また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んでいく。						
64	アーティストリサーチ	通年	メディアテーク	1,000	1,000	市補助金 1,000
令和5年度の展覧会へ向けて、アーティストを招聘、有識者、市民とともに、調査を開始する。						

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考 (単位:千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
65	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	66,761	66,761	市指定管理料 66,761
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。						
②展示事業						
66	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	270	270	市指定管理料 270
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。						
67	企画展「教科書でたどる仙台の教育文化～江戸・明治から現代～」	4/29～7/3	歴史民俗資料館	259	259	市指定管理料 259
仙台藩時代の武士の教育や庶民の教育における四書五経、往来物などの教科書、また今から150年前の明治5年(1872)学制公布以降の近代的な国民国家における教科書、そして戦時下の教科書、戦後すぐの墨塗教科書や暫定的な教科書、さらには現代の教科書など、およそ200年の教科書関連資料を紹介し、仙台における学びの文化の移り変わりとその意義を考える。						

68	特別展「仙台の夏のくらし・秋のくらし」	7/16～11/13	歴史民俗資料館	1,744	1,744	市指定管理料 1,744
仙台の夏から秋にかけての生活に欠かせなかったもの(蚊帳、蚊取り線香、ハエとり器、うちわ、扇子等)や衣類(夏服・冬服と衣替え)、娯楽(花火、登山、海水浴、芋煮会、紅葉狩り等)、飲食物、年中行事等について紹介する。						
69	企画展「人力車から地下鉄へ～新しい時代の乗り物～」	11/26～4/16	歴史民俗資料館	890	890	市指定管理料 890
東北新幹線開業40周年、仙台市地下鉄開業35周年を迎え、鉄道をはじめとして仙台のまちを変えてきた、人力車や自転車・バス・自動車などさまざまな交通用具について展示し、交通の発達とともに変わってきた仙台のまちの風景について紹介する。						

③普及啓発事業

70	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	104	104	市指定管理料 104
<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。</p> <p>②子ども講座(7月、1月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/5の間の6日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」や、生活用品「石臼ひき、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/15):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>						
71	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	20	20	市指定管理料 20
1年間の資料館での事業やイベントなどについてまとめた「資料館だより」をHPで公開するほか、資料館の講座や体験学習などイベントチラシを作成し学校や関連施設に発送周知する。						
72	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、年間50校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。						

④資料の収集・保管及び調査研究事業

73	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,422	1,422	市指定管理料 1,422
資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。						
74	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	1,128	1,128	市指定管理料 1,128
仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行する。						

(2)仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

75	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	95,608	95,608	市指定管理料 95,608
旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。						

②展示事業

76	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	12,473	12,473	市指定管理料 12,473
地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行う。						
77	第100回企画展「仙台の遺跡めぐり 再発見! 富沢遺跡」	4/22～7/18	富沢遺跡保存館	64	64	市指定管理料 64
発掘調査の成果をもとに仙台市内の遺跡を紹介し、身近な地域の歴史や文化財を知るきっかけとする企画展。第100回となることから、富沢遺跡の発掘調査成果を振り返り、最新の情報も紹介する。(ポスター・チラシの印刷は令和3年度予算にて執行済)						
78	第101回企画展「ガラス製品の考古学」(仮)	9/2～11/27	富沢遺跡保存館	238	238	市指定管理料 238
宮城県内から出土したガラス製品と現代の地元作家によるガラス製品を展示し、出土資料への市民の理解を深める。						

79	特別企画展(第102回)「遺跡を科学する」(仮)	1/5~2/26	富沢遺跡保存館	2,305	2,305	市指定管理料 2,305
科学技術の進展に伴い、分析調査は多角化し精度が増し、新しい事実が次々判明している。本展示は富沢遺跡の分析調査成果と最新の分析調査を比較しながら紹介し、明らかとなった過去の環境や人々の暮らしぶりを紹介する。						
80	第103回企画展(令和5年度)ポスター・チラシの印刷	通年	富沢遺跡保存館	138	138	市指定管理料 138
令和5年度開催の第103回企画展のポスター・チラシを作成する。						

③普及啓発事業

81	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,166	1,166	市指定管理料 1,166
<p>①地底の森フェスタ2022(10/10):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施。</p> <p>②考古学講座(7/17、2/18):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、石器づくりなどのモノづくり体験を行い、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行う。また、「冬キラ」や「森を育てる」など、これまで自主財源事業として実施し好評を得た事業もを行い、施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付ける。土・日・祝を中心に毎月1回程度実施。</p> <p>④利用学習事業(6月~3月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日进行。成果は活動報告書にまとめる。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。</p> <p>⑦地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。</p> <p>⑧富沢ゼミ:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財などを紹介する講座。</p>						
82	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設ける。近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等を対象に、懇談会や聞き取り調査を行い、学校や地域との連携事業を進めていくきっかけとする。						

④資料の収集・保管及び調査研究事業

83	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。						
84	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	354	354	市指定管理料 354
保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。						
85	野外展示の維持管理と関連調査	通年	富沢遺跡保存館	540	540	市指定管理料 540
野外展示「氷河期の森」を適切に維持管理するための調査等を行う。併せて植生検討会を開催する。						
86	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	180	180	市指定管理料 180
富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。						
87	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	576	576	市指定管理料 576
令和5年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。また施設長寿命化改修工事及び常設展示リニューアルに向けて、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設けるとともに、職員が調査を実施する。						

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営

88	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	53,028	53,028	市指定管理料 53,028
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。						

②展示事業						
89	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,471	16,471	市指定管理料 16,471
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。						
90	コーナー展示	通年	縄文の森広場	61	61	市指定管理料 61
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。 ①「東北の縄文遺跡-3Dでみる下ノ内浦遺跡の縄文土器-」(3/19～6/12) ②「東北の縄文遺跡」(7/31～10/18) ③「東北の縄文遺跡」(12/1～2/11) ④「東北の縄文遺跡」(3/13～)						
③普及啓発事業						
91	縄文まつり	4/29,10/22	縄文の森広場	615	615	市指定管理料 615
季節ごとに開催する自由参加イベント。計2回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施する。また、野外コンサートを不定期で開催する。春:4/29、秋:10/22						
92	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	1,521	1,521	市指定管理料 1,521
①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座:「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 ④特別イベント:春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。						
93	縄文の森講座	12月～2月	縄文の森広場	139	139	市指定管理料 139
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。コロナの影響がある場合は、毎回公募会場30名・オンライン80名対象。 ①「縄文最新研究 最前線①」(12/11) ②「縄文最新研究 最前線②」(1/22) ③「縄文最新研究 最前線③」(2/26)						
94	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	331	331	市指定管理料 331
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。						
95	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を実施。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。						
96	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,460	2,460	市指定管理料 2,460
小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施する。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもと、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。令和4年度の応募校は30校が見込まれている。						
97	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。						
98	野外展示「縄文の森」の多目的活用 「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	73	73	市指定管理料 73
野外展示「縄文の森」の活用幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行ってきた。当年度も、引き続き縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行う。						
④資料の収集・保管及び調査研究事業						
99	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	55	55	市指定管理料 55
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。						

100	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。					
101	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。					
102	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	29	29	市指定管理料 29
	令和4年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。					
103	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。					

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
104	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	195,419	195,419	市指定管理料 195,419
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。					収益事業を含む
②展示事業						
105	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					
106	特別展「椎名誠 旅する文学館 in 仙台 2022」	4/23～6/26	仙台文学館	4,235	4,235	市指定管理料 4,235
	1979年にエッセイ集『さらば国分寺書店のオババ』でデビューし、以来40年以上にわたって、エッセイ、私小説、SF小説、ルポルタージュ、写真集など様々なジャンルの著書を発表してきた作家・椎名誠の展示を開催。本展は椎名の代名詞とも言える「旅」に焦点をあて、椎名の旅の軌跡をたどりながら、作品の引用とともに旅で手に入れた品々、椎名自身が撮影した写真などを紹介するほか、若い頃に仲間たちと制作していた手作り雑誌、直筆の原稿、取材ノートなど、作家の息づかいが感じられる資料を公開。					
107	夏休み子ども文学館えほんのひろば 忍ペンまん丸	7/17～9/11	仙台文学館	1,511	1,511	市指定管理料 1,511
	いがらしみきおの「忍ペンまん丸」の原画展を開催。「まん丸」という名のペンギンが、キツネやタヌキ、クマなどの先輩の動物忍者とともに、冒険を通じて成長する物語は、子どもから大人まで楽しめる人気作品。作品世界を体感できるような、キャラクターと一緒に記念撮影ができるフオスポットなどを設け、また文学館敷地を巡るワークシートを作成し、気軽に来館いただける仕掛けを用意する。					
108	特別展「山内ジョージ 絵文字展(仮称)」	10/1～12/11	仙台文学館	4,051	4,051	市指定管理料 4,051
	宮城県出身の漫画家・イラストレーターの山内ジョージの文字絵展を開催。父の故郷・登米市で育った山内は、手塚治虫や石ノ森章太郎に憧れ「トキワ荘」で漫画家として研鑽を重ね、東京オリンピックを契機に、イラストレーションに興味を持ち、文字と絵を組み合わせた「文字絵」を生み出した人物。以来アルファベット、ひらがな、漢字などを題材にした作品を数多く手がけ、山内の「文字絵」はカンボジアの識字率向上に一役買っている。本展では「河北新報」に掲載された中学時代の4コママンガ、「トキワ荘」時代の資料はじめ、様々な「文字絵」作品の原画を紹介。					
109	写真展「仙台コレクション(仮称)」	1/21～3/21	仙台文学館	2,149	2,149	市指定管理料 2,149
	2000年から仙台の街を撮り続けている「仙台コレクション」の写真作品と、仙台ゆかりの人々の現在の「ことば」を合わせた展示。写真とことばで、仙台の街の記憶を切り取り、足元にある日常を見つめ直すきっかけとなるような展示内容とする。					
110	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/11～2/12	仙台文学館	210	210	市指定管理料 210
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。またゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。					
111	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,301	1,301	市指定管理料 1,301
	令和5年春の特別展の準備を進める。					

③資料の収集・保管及び調査研究事業

112	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,618	3,618	市指定管理料 3,618
宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。						

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				備考

(単位:千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

113	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	343,878	343,878	市指定管理料 343,878
<p>令和4年度から5年間の指定管理を受け、その開始年となる当年度は次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務をより強化するとともに、火災や震災等の災害に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組む。</p> <p>(2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指す。</p> <p>(3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化する。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進める。</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的に行いながら業務改善に努める。</p> <p>(6)障害のある利用者へ「合理的配慮」への取り組みを行い障害を理由とする差別の解消の推進に努める。</p> <p>(7)令和3年度にリニューアルの改修ポイント等を十分に活用し、情報発信するなど、よりお客様にご満足いただける施設を目指す。</p> <p>(8)大規模改修で未改修の設備があり、それらによる館運営に支障が生じる懸念もあるなか、施設利用者に不都合や不利益が生じることのないよう施設設置者と連携し適切な施設維持管理に努めるとともに、次期大規模改修に備え、これまで培った管理運営の知識と経験を活かし更なる取り組みにあたる。</p> <p>(9)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポートほか、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨をふまえた施設運営を行う。</p>						
						収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

114	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	115,125	115,125	市指定管理料 115,125
<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その3年目となる当年度は次のとおりの業務を行う。</p> <p>(1)令和4年度より2年間に亘って全館を休館して行う大規模改修については、これまでの施設管理運営で培ってきた知識と経験を活かしながら、施設設置者と改修内容に関する打合せのほか、臨時事務所や備品保管のための物件の選定、手続き等、運営に関する準備を進めてきた。改修工事が実施される令和4年度からは、設置者、施工業者等との連携を強め改修工事がよりよい内容となるよう努めていく。</p> <p>(2)令和3年度までの施設利用者の支払いや、取消等による還付手続きをおこなっていく。また、改修による設備変更等に伴う附帯設備料金等の見直しをはじめとした運営面の改善などについて設置者と協議していくなど、リニューアルオープンに向けた準備をすすめていく。</p> <p>(4)地域の音楽振興を目的としたアウトリーチ公演、継続開催しているシリーズ企画の継続など、休館中も市民に芸術鑑賞の機会を提供できるよう努める。</p>						
						収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

115	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	627,990	627,990	市指定管理料 627,990
<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努める。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進める。また、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組む。</p> <p>5年間の指定管理初年度となる当年度、全館において照明等の改修工事を実施するが、関係各所と連携をもって対応し、再開時により良い利用が提案できるよう努めていく。さらに今後の大規模改修とその後を見据え、計画的に保全を図っていく。</p>						
						収益事業を含む
116	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	8,482	8,482	市指定管理料8,482
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーを通じて提供する。</p>						